

## 大学のあるまちづくり ーサスティナブルタウンを目指してー

本年度は学内設備の有効利用やアクセス問題に注目し、プロジェクトを行ないました。昨年度は完全対面でしたが、本年度は教員の都合もありオンライン併用で活動を行なわなくてはならず、全体リーダーの小島君や各班リーダーを中心に思考錯誤しながらもひとつひとつの課題に対して真摯に向き合い、進めていたと思います。先生方からの厳しい指摘に対して自分たちの案を調整していくのは骨の折れる作業だったと思いますが、履修生が主体的に活動し未来の学生が喜ぶ提案を生み出すなど、TAとしては履修生一人一人が新たなものの創造者として意欲的に活動している姿勢を支えることができたことには大きなやりがいを感じました。

## 留学生と創る！伝統と革新・日本酒文化読本 (アントレプレナー)

本プロジェクトは11名という人数の多さを生かして、チームの雰囲気は明るく、活発なコミュニケーションを取ることが強みだと感じていました。仕事の分担や細部の連携が非常に難しいところではありましたが、各所のリーダーが統率し、メンバーが自らの役割を果たすことができていたと思います。春学期はゲストスピーカーの講義、取材を行うなどのインプットを、秋学期では読本製作、留学生イベント、行政プレゼンなど多くのアウトプットを行い、大変忙しい1年間でした。これら全ての活動は、皆さん一人ひとりの役割が十分に機能していなければ、なし得なかったものだと思います。この数多くの学びを、ぜひ今後の学生生活や将来に役立てて下さい。1年間本当にお疲れ様でした。

## こどもの手でつむぐ京都の錦織 ー未来へ伝える伝統の絆

1年間本当にお疲れ様でした。最終的に履修生は2人となり、それぞれの負担も大きくなってしまいましたが、チーム一丸となって最後まで走り抜けられたことをうれしく思います。今年度は子供を対象としたテーマということで、伝統継承の大切さを子供の目線でどのように伝えるかが難しい点であったと思います。限られた時間の中、4月から学んできたことや6月のイベントでの経験を活かして、クローバー祭でのイベントを大成功で終えられたことは誇りに思っています。

織物についての知識がほとんどない状態からスタートしましたが、工房取材やイベントの実施などに積極的に取り組み、常に何かを学び得ようとする姿勢がとても印象的で、そんな2人と1年間活動できたことを光栄に思います。